

卒業の言葉

希望に満ちた真っ新たな心で迎えた入学の日から 3 年が経ちました。経験を積む度に彩りを重ねた日々の重みに、今、改めて思いを巡らせています。

私の中学校生活の核となったのは、多くの教養を得ることができた授業の学びです。机上に留まらない授業をきめ細かく思い出し復習を重ねることで、私は学ぶことの醍醐味を感じてきました。結果や正解ではなく思考に重き置かれた授業では、様々な力が身についたように思います。特に国語では、多くの作品を通し、自分の言葉で表現する力が求められました。内容の難しさに比例して感性が研ぎ澄まされていく過程が、嬉しくてたまりませんでした。これは、他の科目でも同じです。音楽では、曲の背景を理解した上で、歌声やバイオリンを通して曲に込められた思いを表現します。自分達にしか生み出せない響き合いこそ、音楽の味わい深さであると感じました。

また、今年はオンライン授業による新たな魅力に気付きました。先の見えない日々戸惑い、自分を律し続けるのに苦勞しつつも、私は学びの深みを知りました。忙しい学校生活にはできなかった、自力で答えのない問いを考え、1 人で磨きをかけていく。自分に時間をつぎ込めるからこそ貪欲に向き合い、だんだんと発想が創造的になるのを実感しました。

私は、1 年生の最後に出会った、寺山修司の言葉を鮮明に覚えています。「どんな鳥も想像力より高く飛べる鳥はいない。人間に与えられた能力の中で、一番素晴らしいものは想像力である。」今、改めてこの言葉を考えると、学びの本質が見えてきます。思考と立ち止まりを繰り返して言葉を紡いでいく。成長が表われた 3 年間の課題や試験用紙は、私の宝物です。

自治活動も、私を成長させてくれたものでした。私は 3 年間、様々な自治に参加する機会に恵まれました。特に、3 年間務めた十月祭行事委員は、達成感だけでなく、自分の軸を養うことができた密度の濃い時間でした。ですが、楽しさを味わう分それと同じくらいの悔しさも感じなければなりません。時には夢が叶わなかったこともありました。後悔のあと、私は失敗の中で何を得たのかを考え、その中で自分の弱さと、強さを知りました。上手いかなかった過去の経験と向き合うことは、とても辛いことです。けれども同時にそれは次の一步に繋げる最善の術でもあります。私は自分に厳しく努力できなかったこともありましたが、最後まで正しいと思うことを貫く軸は決して揺るぎませんでした。そして、これを元に自分の力で立ち直れたことは、自信へと繋がり、自分の殻を打ち破るきっかけになりました。

この経験から、初めてのオンライン開催での十月祭では、行事委員として新しい案を積極的に発信するように努めました。自分の力を素直に受け入れた上で、その力を最大限発揮する。得た力を存分に生かした今年の活動は、自分の礎となる価値ある時間でした。

3 年間の自治の積み重ねで感じたこと。それは、誠実さがなければ、人のための善意も、自分を育てることもできないということ。そのチャンスを得られることの貴重さ。そしてだからこそ責任を持って粘り強く力を出し切ること。これらは、これからの私にとって、心の要としたい大切な学びの一つです。

友人との関わりも、自分の内面を見つめるきっかけとなりました。私にとって、クラブ活動で出会った仲間は大きな存在でした。私は 2 年生の頃、クラブ活動において大きな分岐点に立ったことがありました。悩んで考え抜いた末に出した決断。自分本位に苦しみから逃れてしまった悔しさを抱える私に、周りの仲間たちは時に優しく、時に厳しく声をかけてくれました。そのひたむきな努力、相手を気遣う視野の広さ。彼女たちの姿を見て、私も皆と支え合う一員になりたい、そんな目標が生まれました。成長の機会を与えてくれた刺激的な友人たちには、感謝の思いでいっぱいです。

また、コロナ禍を経験する中で、より一層人との繋がりあたたかさを感じました。授業だけでなく、私たちの気持ちを尊重し、相談に乗ってくださった先生方。学校生活の基盤を築いてくださった職員の方々。そして家族。例年になく日程の中でも日常生活を様々な面で支えてもらい、今日という卒業の日を迎えることができました。私たちを見守り応援してくださった方々、本当にありがとうございました。

3年間、輝きとやりがいの裏には常に不安と葛藤がありました。しかし、たくさんの思いを抱えてきた経験は、これからの道標になると信じています。困難の多い年でも強く耐え抜いた私たちだからこそ、いかなる壁にもきつと打ち勝てるはず。人生の旅は、これからも続きます。その旅路に更なる彩りを重ねるため、感謝と、夢と、意志を胸に、力強く歩いて参ります。雲を乗り越えた先に、新しい青空に出会えると信じて。

2021年3月18日 卒業生代表